

会長就任のご挨拶

社団法人 日本金属学会第58代会長 加藤 雅 治

このたび、皆様方からのご推挙により、日本金属学会の会長を仰せつかることになりました。大変光栄ではありますが、私にとりましてはまさに青天の霹靂であり、その責任の重大さをひしひしと感じております。原信義、橋本操、落合庄治郎の各副会長をはじめ、梶原義雅専務理事、理事、評議員、会員、事務局各位のお力添えをいただきながら、本会および会員の皆様のために微力を尽くさせていただきたく所存です。



本会は「金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかる」ことを目的として1937年に本多光太郎先生を初代会長として設立され、今年で73年目にあたる伝統ある学会です。日本鉄鋼協会とともに、わが国の材料分野を代表する学会であり、材料に関する学界、産業界の進歩・発展に大きな役割を果たしてきました。

さて、昨年12月1日に公益法人制度改革関連法令が施行され、本会は特例社団法人に移行しました。以後、なるべく早い時期に公益社団法人として認可されることを目指しています。これには「会員のため」から「公益のため」への意識改革が必要であり、定款の全面改訂の検討など多くの対策を実施中です。

しかし、法人制度が変わっても本会の目的に変わりはありません。刊行事業、講演会・講習会事業、調査・研究事業および表彰・奨励事業の4事業に継続的に力を注いでいく必要があります。会員の皆様全員がお持ちのご経験と思いますが、難しい論文を勉強して理解したときの感激、講演大会で立派に研究発表を行ったときの達成感、あるいは教科書や文献でしか知らなかった大先生に質問されたときの緊張感、などの新鮮かつ純粋な感動の場を、とくに次代を担う若い世代の多くの方々に提供することも、本会の重要な責務であります。

残念ながら、少子化、若者の理工系離れ、材料系の学科・専攻の減少、そして、追いつけをかけるような世界的な経済不況など、材料の学問・技術の伝承と創造にとって、大変困難な時代に私どもは直面しております。申すまでもなく、「材料立国」のわが国にとって由由しき問題です。本会においても、財政基盤の確立に長年努めてきたにもかかわらず、機関誌の印刷費および発送費の高騰や広告収入の減少、講演大会会場費の値上げなど、支出の増加が顕著になっております。事業のアウトプットを増やしながらかつて財政を改善するにはどうしたらよいか、今一度原点に帰って対策を検討する必要があります。

以上のような認識の下、本年度の具体的な活動目標を次のように掲げます。

1. 公益社団法人認定申請への準備

- ①最も早いタイミングでは、本年秋期講演大会時の臨時総会で定款および細則の変更が協議できるよう準備をします。
- ②支部運営について法令順守のための具体的な対策を、支部および事務局がよく連携して検討します。

2. 材料分野のプレゼンス向上と材料戦略活動の強化

- ①学協会連携の材料戦略委員会と材料戦略企画委員会ならびに本会の戦略推進委員会と分科会運営委員会で、第4期科学技術基本計画に向けた材料分野の重要な研究開発課題を検討し、総合科学技術会議に提言する予定です。
- ②材料戦略活動との同期によって、科学研究費補助金獲得活動を活性化させます。
- ③日本学術会議の「日本の展望」の作成において、材料分野での提言に協力します。
- ④上記のアイデアの源として、材料分野のアカデミックロードマップをさらに洗練させます。

3. 国内学協会との連携

- ①欧文誌の共同刊行を継続します。国内唯一の分野別ポータルサイトである Materials Journal Portal Site (<http://matjournal.org/>)を充実させます。
- ②日本鉄鋼協会との連携をさらに強化し、両会の共通課題に取り組みます。

4. 海外学協会との連携と国際活動

- ①材料分野の学協会連携組織である International Organization of Materials, Metals & Minerals Societies (IOMMMS) の World Materials Day Award や Global Materials Forum 活動に積極的に参加します。
- ②2国間交流として、大韓金属・材料学会(KIM)との KIM/JIM Joint Symposium の継続や The Minerals, Metals & Materials Society (TMS) との Young Leader International Scholar Program を継続します。
- ③環太平洋地区での連携として2010年8月オーストラリアで開催される PRICM7 を支援します。

これらの活動によって、本会の事業が益々盛んになり、材料が社会に貢献できるよう、「人の和と輪」を大切にしながら努力してまいります。会員各位ならびに事務局各位のご理解とご協力のほどを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2009年4月